

# 農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院  
農村伝道神学校  
発行人 高柳 富夫

## 「小さちやんたち」(2)

校長 高柳富夫

「神学校から東へ下って野津田車庫のバス停に出る道の途中に、通称『上の原はらっぱ』と呼ばれている開けた場所があります。歩いて五分もかからない所です。」

三月八日(木)朝、町田市はこのはらっぱに突然重機を入れて砂利を敷き詰める工事を始めました。Jリーグのサッカー試合に備えて約一五〇台分の臨時駐車場を作るためです。」

学報一四六号でこう記して、農伝がその一角に位置する野津田公園の「はらっぱ」で何が起きているかを報告しました。二〇一二年のことです。

市は「上の原はらっぱ」に一方的に暫定駐車場を作ろうとしましたが、丸一年に及ぶ阻止活動の結果、この計画は止める事ができました。

ところが、その過程で、市は新たに「野津田公園第二次整備基本計画」なるものを打

ち出し、八〇年代初めより今日まで、長年に渡りスポーツと里山の共存を基本に保持して来た姿勢を大きく転換しました。市民の意見は聞きまし

たというアライバイ証明のような懇談会を組織開催し、最初から市が決めていた「自然の中で楽しむ総合スポーツパーク」というコンセプトを一方的に押し付けて、強引に計画を進めています。

昨年一月に二週間行った市民意見募集でも、全体の三〇パーセントを超える反対、見直し意見を無視して、一つ一つはそれほど要望の多くないスポーツ施設や関連施設を一〇箇所以上導入する基本設計図を示して、「大方の市民の賛意は得られた」と強弁しています。

私たち「上の原はらっぱを守るネットワーク」は再度請願を行い、五千三百筆におよぶ署名を添えて提出しました。

請願の主旨は「市民意見を尊重し、十分に時間をかけて計画を練り直す事」「懇談会答申を重視して、市民に徹底周知し、開かれた場で協議すること」「緑を保全して、自然環境を活かした公園づくりをすること」でしたが、この請願は今年九月の市議会でも不採択となりました。

町田市長の強引な市政と、スポーツ団体を圧力団体とする議員たちのさまざまな思惑が絡み合って、利害や力関係の渦巻く中で、民主的な市政が危機に瀕しているのが実情です。

野津田公園は一九八〇年代初めに公園としての整備がスタートしました。はじめはスポーツ施設を中心とした運動公園とする計画が行われましたが、九〇年代に入って、市民が声を上げ、豊かに残る里山の自然をできる限り保全する計画へと変更されてきたのです。

スポーツ施設は四〇ヘクタールの広大な土地の主として西側と北側に、里山の自然が広がる南側と東側はそのまま保全する、という合意が市と市民との間になされて来ました。一九九七年の朝日新聞にも「市民の声で公園が変わる」という記事が掲載されています。一九九九年には当時の市長

と市民団体の間に公文書が交わされて、特に私たちが守りたいと活動して来た「上の原はらっぱ」がある南側は最大限そのままに残し、車での進入路は作らないと約束されて来た場所なのです。

現市長は、その公文書作成には手続き上瑕疵があったとして否定しようとしています。また、一九八三年に定められた「町田市緑の保全と育成に関する条例」では、市長は緑の保全と育成を図るために町田市みどり委員会の意見を聞かなければならないと定められているにもかかわらず、いまこれほど重大な緑行政の変更を行うおうとしている時にさえ、「みどり委員会」への諮問を一切しようとしていません。

二〇一一年には「町田市緑の基本計画二〇二〇」という冊子を出版して、町田市の緑がどれほど失われて来ているかを述べて、緑の保全の重要性を掲げています。そうであれば、いまこそこの基本計画がその通りに行われているかどうかを検証するために、休止状態の「みどり委員会」を再会する必要があるでしょう。

ところが、一方では緑の危機を言い、市民との協働を謳いながら、他方では強引に緑行政の変更を押し進めるといふ、二枚舌市政が行われているのです。

このまま市の計画通りに進められて行くなら、野津田の自然は深刻に破壊されて行きます。小さちやんたちの生存は脅かされ、踏みつけられて、奪われていくこととなります。私たちはこのまま市の計画を黙って見過ごしにするわけには参りません。小さちやんたちを思いつつ、忍耐を持って、息長く、地道に、話し合いと呼びかけと働きかけを続けて行こうとしている所です。

創世記には「地は草を芽生えさせよ。」「地は草を芽生えさせた。」「地はそれぞれの生き物を産み出せ。」「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」と、土と草、土と動物、土と人間の根源的な関わりを示す言葉が繰り返されています。

神は草や生き物や人間を直接造るのではなく、土を呼びかけ、土を用いて創造しています。そして、土から造られた人間も、「土に仕え、これを守る」(岩波版)ためと言われて、神に直接仕えるというよりも、むしろ土に仕えるために造られたのだと言われています。

土を顧みず、自然を破壊することは、すなわち人間を破

壊する行為です。人間を中心に置いて、人間の利益や快適や楽しみを追求するために、自然を利用し結果的に破壊する生き方は、もう止めなければなりません。

人間の悪のゆえに土（大地、自然）が呪われるという思想がヘブライ語聖書の「環境の神学」です。土の声を聴き、自然の声に耳を傾ける事が求められています。助けを求めている「小さちゃんたち」の声を。

### 台湾実習報告

小手川 到



「マリマリ」。これは、台湾南部の原住民パイワン族の言葉で「ありがとう」を意味す



る。台湾原住民は一六部族あり、漢民族、西欧諸国、日本、国民党政府が支配するはるか昔から独自の文化と言葉をもって生きてきた。彼らは文字が無い。その代わり、歌、踊り、身体能力の才能を神から与えられた。度重なる外部からの侵略によって、多くは山地に住む。その山地の教会で、夜明け前から讃美歌の歌声が美しく響く。原住民のキリスト教受洗率は七〇%である。台湾全体で三%程度なので、いかに信仰が定着しているかわかる。私は夏の一か月間、玉山神学院という原住民の長老教会の神学校で実習し、また台湾全土の原住民教会を訪ねて人々と交流した。その数は五〇に上る。どの教会で

も、歌や踊り、おいしい原住民・台湾料理、めずらしい果物の歓待を受けた。私は原住民教会で礼拝説教をさせていた。若者から高齢者まで三〇〇人もの礼拝出席があった。通訳を介してだが、熱心に話を聞いてくれた。七八歳以上の高齢者は、日本語でなつかしように話しかけてくれる。彼らは、「平山一郎」「せつ子」など、日本統治時代の日本名を持っていく。行く先々で、原住民の言葉を教えてもらった。台湾北部のタイヤル族では、「ありがとう」は、「モフアイ・ス」となる。原住民の名前も付けてもらった。「セディック族では「ピアン」、ブノン族では「ラウング」と名づけられた。部族ごとに異なる豊かな文化と言葉を持つ台湾原住民であるが、若者はもっぱら北京語を話し、原住民の言葉を話せなくなったという。聖書も原住民の言葉に翻訳できいていない部族もある。原住民教会の大きな役割のひとつは、この失われつつある言葉を、聖書の御言葉と讃美歌の中に残していくことにあるようだ。お茶（烏龍茶）の産地として有名な阿里山の部落に行った。ここにはツオ族が住んでいる。一〇〇〇メートルを超える高地では霧が発生し涼しく、日当たりの良い斜面

では、お茶や高原野菜が栽培されている。しかしその多くは、原住民から土地を獲得した漢民族が大資本で経営している。原住民は茶摘みなど肉体労働のみを提供する。原住民にとって利益の小さい農業に甘んじるのではなく、付加価値の高い産業を自ら育成することが必要だという。ツオ族のある牧師は、無農薬コーヒーやオーガニック野菜の栽培を広めようとがんばっている。しかし、いくら無農薬でがんばっても、周りが農薬を使って栽培していると、逃げてきた虫が、みな自分の畑の無農薬野菜を食べてしまい、なかなか難しいようだ。今回多くの原住民の高齢者が、昔は服も靴もなく、食べ物も少なかったが、「病気になるなかつた」、「風邪などひかなかつた」と口をそろえる。現代、体が弱くなって、病気になるやすくなったのは、農薬を使った農作物を食べるようになってからだと言う。原住民の長老教会では、自然保護、食の安全、原発（反核）に関して、積極的に警鐘を鳴らす活動も行っている。自然と共に生きることの大切さを台湾原住民は昔から知っている。利益至上主義の現代社会において、私たちが台湾原住民の知恵に学ばなければならない。

### 台湾実習報告

沼田 弘行



今まで海外旅行は、何度か行った事はあったが、今回のように、約一ヶ月にも及ぶ長い間の旅行は、始めてであり、言葉の不安と、どんな内容の実習になるのか、期待とを抱きながら、羽田空港を出発した。松山機場（空港）で迎えてくれたのは、玉山神学院で奉仕をされている、シン・オラム牧師で、今回の台湾学習の通訳者であり、一番長く行動を共にする方である。

夜の食事は、美味しい餃子の店に案内され、餃子だけで、お腹がいっぱいになった。これが、食事接待のプロローグ

となり、次の日から、行く場所、場所、食事の接待で三日目からは胃薬を飲みながらの食事になった。訪問した原住民の教会は五十教会、八部族で、どの教会の牧師も信徒達も、暖かく私達二人を迎えてくれた。言葉が通じなくても、身振り、手振り、一生懸命に接待してくれる気持ちがとても嬉しかった。

ある教会の牧師は、言葉が通じなく、何とかして、自分の思いを伝えたくて、携帯電話で、日本語の話せる人に電話し、日本語を教えて貰っていた。電話の向こうから、返ってきた言葉は『もったいない』という言葉であった。自分の思いを伝えようとする言葉、話せなくて残念で仕方ないと言ったのである。この牧師の思いが通じた時、何とも言えない安堵感と喜びを感じた。心と心の交わりが出来た時であった。

今回、原住民の礼拝と祈禱会に参加して、一番驚いた事は、礼拝が音楽と祈り中心に執り行なわれ、日本の礼拝が、すごく静かに思えた事であった。

子供たちも、礼拝奉仕に積極的に参加していて、受付や式次第の印刷、礼拝参加者に式次第の配布等をしていた。各部族毎の賛美歌があり、

部族語と北京語で歌う賛美歌は、自分達の部族に対する誇りが感じ取れた。ほとんどの教会に、ドラムが置いてあり、賛美歌のリズムを力強くしている。

牧師の祈りと説教が、大変力強く、普段、話す時は声が小さく、大変物静かになのに、祈る時、説教する時になると、人が変わった様に、熱い祈りと説教になり、何を話しているのか言葉は通じないが、熱気と思いは、十分に汲み取れ、思いは伝わってきた。

祈禱会も、日本では、一人一人順番に祈るのに対して、牧師の『祈り』の合図で信徒全員が一斉に祈り始める、それも、熱く祈り始めるのには、驚かされた。

どの教会の信徒達も、大変フレンドリーに、接してくれた。ある老人(八十八歳)は、久しぶりに話す日本語に懐かしさを覚え、老人が小学生の時に覚えた、知っている日本語を一生懸命に話し、辛い昔の体験談を思い出しながら、昔話と、笑って話した事に、複雑な思いがした。

最後に、この約一ヶ月にわたる、実習の中で、多くの人の祈りと、奉仕により、自分は支えられている事を知った。この多くの人より受けた神様の恵みを、今後の教会生活に

生かして行きたいと思う。この素晴らしい経験を与え、サポートして下さった、高柳校長をはじめ皆様に感謝申し上げます。

### 農場報告

農場担当 池迫直人

多くの読者はご存じだろうが、本校は、二〇〇〇年の財政危機において、校地を売却して移転する計画を白紙に戻したのだった。わたしが着任したのはその後の二〇〇七年であったから、農場の運営も、

神学校のカリキュラムや学校運営において農に関する具体的な方針などがあるものだと勝手に思い込んでしまった。着任後から繁茂拡大する全校地に及ぶ笹竹を刈り払うことから着手したのだった。

しかし、わたしの着任前の七年間にわたる学校の運営実情は、ひたすら経営再建に全力を注いだということを知ることができるようになった。それと同時に「はたして農場は必要なのか」という自問がはじまったのだ。営利農場廃止以後、学校全体としては、農場を含む広大な校地は、「あればなお

よい」緑豊かな環境以外に存続の根拠はなかった、だから二度にわたって切り売りしてきたのである。わたしが現場で遭遇する事態から問われることは、「はたして本校の神学教育に農場は必要か」ということに収斂される。

例えば、栗畑の木が次々と虫害により枯れている。原因は、かつて本校の土地であった陸上競技場がJリーグ公式戦仕様にならなくなったので、当然のことと同等に除草が不十分であることによる。これを更新するかという事態に直面しており、数万円と労力を投入して苗木を植えるために「やる」と言い切る自信がない。

またわたしが学生時代に、農業実習で星野正興当時農場担当講師のもとに植えたお茶の木も、夏場にツルや雑草が繁茂するのを見過ぎしながら他の作業をしなければならぬ。

農場は必要かという問いは今後未解決であり続けるだろうし、地道な机上の作業と現状を維持する労働が必要だ。

ところで、本校が野津田に留まり学校を再建する引き金となったのはシオン幼稚園であった。校地を必要としていたのは神学校以上に、幼稚園であった。ここから言えることは、すべての幼稚園が農園

や広大な土地を必要としないが、シオン幼稚園はそれを大切な教育にすえている。ならば、一神学校の個別教育理念としては、成り立ちうると思える。

本校の理念上大きな節目に位置づけられる「本校の使命」において明らかになったところは、農は他の少数、周辺化された立場から発せられる問いの一つになったので、当然重農主義的にかつてのように毎日午後は農作業というわけには行かない。

時間の制限の中で、現在では環境科学で説かれる循環を体験してもらうために残飯を当番制で堆肥化してもらう。校内整備は学校行事と連関させ、ノーデン・デーの焼き芋のために除草をしてもらうなど日常を維持する営みが連関していることを実感してもらうように務めている。

机上で座学だけして競争出世するための偏知性中心の教育は、このような包括的な生の維持作業を汚い仕事、罰当番などにして負の皮膚感覚を定着させてきた。寄せ場や性差別にも関連する大切な変革の一步だと自覚している。

このような小さな実践に呼応すべく仮説程度の教育理念でも与えられないかと農場で問いを反芻している。

追悼

高田弘牧師



第一九回卒は、知花正勝師、鈴木(松村)重雄師、下田洋一師、高田弘師とわたくしの五名です。それぞれ六、五、四、二年、そして三年と在学しました。高田師は、大阪キリスト教短期大学神学科卒業後編入、一番若い入学者、しかし一番年長者でした。最初寮では同室になったものの、献身以来苦学のなかで視力が落ち、日中の光に弱く、彼が在室中は暗幕を張るような状態でした。農伝ではあまり取り扱われることのないJ・ウエスレーをよく引き合いに出され、煙たがられました。持ち前のおおらかさをもって校内の人気者になりました。卒業後愛知県豊山教会、ほだなく北海道の置戸教会に赴任され、野口光雄牧師のあと無牧であった伝道地を再建されました。二〇回の青砥好夫師とは同郷興部出身で、ともに石川直一牧師の薫陶を得て育たれました。教会、保育園、そして図書館を中心に、地域

振興のリーダーともなつて三〇数年、また青砥師とともに道東地区の大きな柱となられました。脳梗塞を患われ、回復ししばらく置戸の牧会が続きましたが隠退され、札幌で二〇一三年六月一五日召天されました。享年七三歳。聖子夫人の大きな支えを覚えます。また御次男、恵嗣師が父上を目標に直接伝道者としていまおられることがなによりも、高田弘師を知る者の慰めであり、励ましです。

島田勝彦

学事報告

◆九月二四日(水)一六日(金)

集中講義・農村伝道論(講師:加藤久幸氏(水海道教会牧師))  
◆神学校日には下記の教会から依頼があり、学生、教師を

理事評議員会報告

国は子ども・子育て支援新制度を発足させ現行の幼稚園と保育園を、幼保一体型の認定子ども園に移行させようとしている。鶴川シオン幼稚園は当面は移行をおこなわず、現在の形態のままとすること

派遣した。埼玉和光教会、上大岡教会、鶴川北教会、まぶね教会、三鷹教会、上星川教会、原町田教会、稲城教会、城西教会、小諸教会、横浜二ツ橋教会、川崎戸手教会、水元教会、藤沢大庭教会。

にして、経緯を見守っている。本田栄一園長が一〇月に手術をされたが、無事退院。この間、園事の統括を主任がおこない、常務理事会はこれを支えるようにした。

農村伝道神学校は二〇一五年度より兼任教師として大倉一郎氏を採用する。氏は現在フェリス女学院大学教員。

(書記 横野朝彦)

お知らせ

◎今年度特別講義  
「I」日時:一二月九日(火)一〇日(水)一〇時~一五時半  
テーマ:「三・一一を生きるキリスト教」  
講師:佐藤真史氏(東北教区被災者支援センター・エマオ/いずみ愛泉教会担任教師)  
参考図書:『三・一一後を生きるキリスト教』川端純四郎

著(新教出版社)  
「II」日時:一二月一日(木)一二日(金)一〇時~一五時半  
テーマ:「パレスチナ問題とキリスト者の責任」  
講師:神崎雄二氏(月島聖公会牧師)、岩浅紀久氏(ITエンジニアリング研究所代表取締役)、梶山順子氏・岩浅明子氏(サラーム・パレスチナメンバー)  
公開とします。聴講ご希望の方は事務室までお申し込みください。一日につき二千人。なお、昼食ご希望の方は、お弁当を申し込む事ができます(五百円)、要予約。

お詫びと訂正

◆学報一五四号、「吉武恵(保育科卒)」は「吉武恵(神学科・保育科卒)」にお詫びして訂正します。

2015年度入学案内

■教育目標

- ・農村・地方教会に仕える牧師・信徒伝道者を養成します。そのため現場、農業実習、共同生活を大切にします。
- ・貧困・差別・人権という諸問題を神学の課題とします。
- ・戦争責任を明確にしアジアの人々と教会との対話の中で神学教育を行います。

■受験資格

- ①日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後一年以上(洗礼式を行わない教派に関しては、それに準ずるもの)の教会生活をしていること。
- ②牧師・信徒伝道者となる召命を受け、所属教会が推薦すること。

■修業年限 4年

■入学試験

- 第1回 2014年11月26日(水)
- 第2回 2015年2月25日(水)

■入学試験科目

- (1)小論文 (2)新約聖書・旧約聖書 (3)面接

・学校案内・入学願書・過去の試験問題等は神学校事務室まで請求下さい。

※ 学校見学・体験入学

希望する方は事務室に申し出下さい。授業参加、食堂の昼食、教師との面談をすることができます。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: http://www11.ocn.ne.jp/~noden/

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418